

## 2024年度 有料道路コンセッションの取組状況について（概要版）

### I. 事業報告

#### (1) 交通量 (6,636万台 [2023] → 6,871万台 [2024])

- 8路線全体の交通量は、前年度（2023年度）比では103.5%と増加したが、コロナ禍前の2018年度比では97.4%
- 路線別では、2018年度比で知多横断道路が92.6%、中部国際空港連絡道路が95.5%と回復に至っていないが、名古屋瀬戸道路は112.3%と堅調な回復

#### (2) 料金収入 (16,323百万円 [2023] → 16,908百万円 [2024])

- 8路線全体の料金収入は、前年度（2023年度）比では103.6%と増加したが、2018年度比では96.8%
- 路線別では、2018年度比で南知多道路が90.0%、知多横断道路が91.1%、中部国際空港連絡道路が92.6%と回復に至っていないが、名古屋瀬戸道路は123.2%と堅調な回復

#### (3) 収支状況

##### ○ 2024年度の収支実績

- ・愛知県道路公社（以下「公社」）の償還準備金繰入は22億円
- ・愛知道路コンセッション株（以下「ARC」）は当期純利益2.2億円を計上

#### 【評価】

- 2024年度のARCの収支は、料金収入が前年同様の水準を維持し、売上高は計画比で101.8%となった。さらに、売上原価が計画比で95.7%に抑えられた結果、当期純利益は黒字を確保
- 売上原価の主な減少要因は、雪氷・点検等の費用が減額となったため
- 公社の償還準備金繰入は、計画を上回る実績であることや、料金収入は回復傾向にあることから中長期的な償還計画に大きな影響を及ぼす可能性は低い

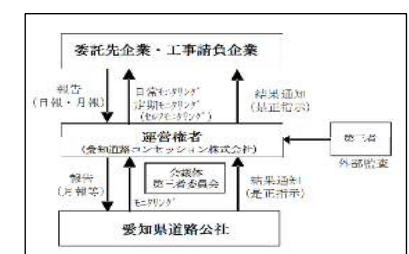
### II. 主な取組内容

#### (1) 通常時や災害時等における維持管理・運営業務

- 公社運営時と同様の管理水準、サービス水準を確保
- 不測の事態に対しても、公社と連携し適切に対応
- ARCが認証取得したIS055001アセットマネジメントシステムの継続運用や台帳、点検調書、修繕計画などをシステムで一元管理するとともに、重要管理指標（KPI）の目標値を掲げ、事業目的達成のためPDCAサイクルによる継続的な見直しにより、事業運営の効率化や安全・安心な道路運営及び利用者サービスの向上を実現

#### (2) モニタリング実施による要求水準の確保

- 公社が要求する水準（要求水準書）の達成状況等を確認するため、ARCによるセルフモニタリングと公社によるモニタリングを2段階で実施
- 会議体や中立的な立場の第三者委員会による重層的なチェック体制を構築



【モニタリング概要図】

#### 【評価】

- 業務全体が要求する水準を充足しており、年間を通じて適切な事業運営を確保
- 維持管理・運営業務における不適切な作業方法等全4件について、ARCに対して是正指導や注意等を行い、再発防止の徹底を図った

### (3) 民間の創意工夫による取組

- IS055001認証の維持（2年次定期審査）
- 維持管理情報のデジタル化等の導入
- 電子帳票ソリューション「i-Reporter」の運用
- 電子裏議システムの導入運用
- BIツールと活用した道路施設損傷等の情報可視化
- 新技術の実証実験  
(愛知アクセラレートフィールド®)
- 1日1,000円ETC乗り放題企画を実施し利用促進
- 知多半島外と相互に人流を生み出すための広域連携PRイベントや、知多半島の市町をPRした「知多半島スマートマーケット」や「キッチンカーイベント」の開催
- PA情報コーナーを作品展示の場として利用
- PAで企業と連携して、「親子で味噌手づくり体験会」やプロバスケットボールチーム「ファイティングイーグルス名古屋」によるショーティング体験を開催
- 冬のイベントとして、PAでイルミネーション装飾の実施
- ARC道路カード全9種類+コンプリートカードを配布



大府PA（上り）

大府PA（下り）

親子で味噌手づくり体験



#### 【評価】

- 1日乗り放題企画では利用者の多いETC利用者向けに実施するなど、利用者ニーズを反映した利用促進及び利用者サービス向上に取り組んでいる
- 知多半島の市町及び企業と連携してPRイベントを開催し、地域の活性化に取り組んでいる
- 新技術導入に必要なフィールド検証を行う仕組み「愛知アクセラレートフィールド®」を活用し、新技術の実証実験を行うとともに、活動成果を広く発信し、新たな事業機会の創出や将来的な道路インフラ事業に取り組んでいる